

## アジア・太平洋戦争終末期における日本陸軍の「皇統護持工作」試論 ―「北白川宮工作」準備を中心に

山内龍

本稿は、アジア・太平洋戦争末期に陸軍の情報将校によって考案された皇統護持工作について、特に北白川宮道久王の秘匿を計画した「北白川宮工作」に注目して考察するものである。皇族の秘匿に関する工作は、1945 年 8 月 15 日の停戦以降、陸海軍内でいくつか考案された形跡があるが、ポツダム宣言受諾の前から陸軍中央で構想が存在したのは、管見の限りにおいて「北白川宮工作」のみである。本稿では、この工作について、関わった人物、その立場、計画の構想を中心に各証言を分析し、8 月 10 日のポツダム宣言受諾決定以降、陸軍中央で準備されるクーデター計画の動向とも絡めながら、構想の推移について論じた。